

# S部門

(肢体不自由教育部門)

文字・言語・文章の教材

教材ガイド



平成27年度作成

東京都立鹿本学園

## 目次

- Let's count 1－10
- お話作り
- かんたんな文章構成
- こんにゃくキューブ
- そらいろのたねの大きな家
- のばすおんボード
- 意思伝達パネル
- 国語4コマ漫画で楽しく読解力を育む
- 自己表現
- 大きなかぶ
- 拗音カルタ

# Let's count 1-10

～パネルシアター「Ten Little Indians」～

## 対象児童・生徒

- ・ 準ずる・知的代替課程の生徒
- ・ 英語を学習する生徒

S 中1 C学習グループ  
準ずる 教育課程



## ねらい

- ・ 英語の数の数え方を学ぶ。(1から10まで)
- ・ 複数形の-sを理解する。

目で見て、数が増えていくのがわかるので、ただ歌を歌うより、数のイメージをつかむことができます。歌によってはスピードが速いものもあるので、教員がインディアンを出すスピードが追い付かず、生徒さんはハラハラして、意外に集中力が増します。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ① 歌「Ten Little Indians」をCDで流す。
- ② 歌に合わせて、インディアンを出す。
- ③ 1→10に増やした後、10→1に減らす。
- ④ 歌の後、ゆっくり数唱する。
- ⑤ 準ずる課程の生徒には、One IndianとTen Indiansの、複数形の-sの歌詞の違いに気付かせる。
- ⑥ Let's count 1-10 backward!と、10から1まで、逆に数唱させると、意外に難しいので、盛り上がる。

# お話作り ～イメージを膨らませて～

## 対象児童・生徒

・国語学習の4要素のうち、「読む」は学年相当の学習を進めています。「聞く」「話す」「書く」については個別の対応をしながら支援していく必要があります。特に4要素すべてが含まれている「自由な文章を書く」という課題にチャレンジすることで、総合的な国語力を向上させることができると考えられます。

S 小3 C学習グループ

準ずる

教育課程



## ねらい

- ・物事を順序立てて考え、相手に分かりやすく表現（文章化）する力を育てる。
- ・キーワードを手掛かりに、イメージを膨らませる力を育てる。
- ・考えをまとめ、その内容を正しく文章表記する力を育てる。

### 【作り方】

- ・1枚のカードに12枚のパネルを配置する。
- ・ラミネートし、リングで留める。
- ・ワークシートを作成する。

### 【工夫した点】

- ・絵の内容や配置順に関連性はなく、児童が自由に発想を膨らませられるようにした。
- ・カードを机上に置いたまま、筆記学習に移行できるよう、A4の半分サイズにした。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①カードから2枚の絵を選択させる（慣れてきたら枚数を増やす）。
- ②最初は何も出てこないことが予想される。初めから完全な文章を求めず、児童が自由な発想を膨らませることを優先する。思いついたことを自由に発言させ、教員がホワイトボードに板書する。
- ③キーワードをつなげながら教員と一緒に文章化する（その際には、一文ではなく、起承転結を含む「物語」になるよう指導する）。
- ④慣れてきたら、児童がキーワードをつなげて文章化する。
- ⑤段階に合わせてワークシートを使用しながら、頭の中でイメージしたことをまとめ、その内容を文章表記する練習をする。
- ⑥友達同士で発表する。「話す」「聞く」力の向上につなげる。

＊さらに慣れてきたら、さいころなどを利用し絵パネルの枚数や種類をランダムに選択し、与えられたものを使用してオリジナルの物語が作れることを課題とする。

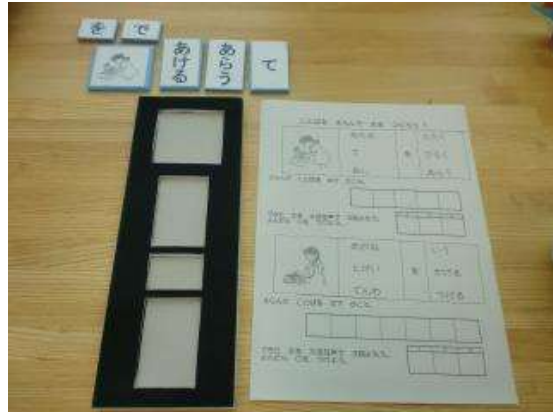
# かんたんな文章構成 ～なにをしているところでしょう～

## 対象児童・生徒

- ・イラストを見て、何をしているところか分かる。
- ・ひらがなを読んだり、書いたりすることができる。
- ・名詞、動詞の語彙が少ない。
- ・助詞の学習を始める。

S 小4 B学習グループ

知的障害を併せ有する児童の 教育課程



## ねらい

- ・身近な語彙を増やす。
- ・イラストに合うように、単語を選ぶ。
- ・イラストを見て、簡単な文章をつくる。

- ・初めに、単語カードを使用して語彙を覚えたり文章をつくる。その後、ワークシートでも書いたり読んだりする。
- ・単語カードは、名詞、助詞、動詞に分け、操作しながら文章を作ることができるようにした。
- ・ワークシートは、つくる文章の文字数とマスの数を一致させ、分かりやすくした。
- ・読んだ後のチェックは、書いたりシールを貼ったりするなど、児童に合わせてる。

## 教材の使い方 (指導方法)

### 【単語カード】

- ①イラストを提示する。
  - ②単語カードを提示する。
  - ③単語カードを文章になるように並べる。
  - ④できた文章を読む。
- ※動詞や助詞が課題の児童は、その部分の選択が課題となるように提示します。

### 文章構成



### ※動詞の選択



### 【ワークシート】

- ①ワークシートに書かれている単語の選択肢から、イラストに合うものを選ぶ。
- ②正しい単語を選ぶことができたか確認し、枠のなかに文章を書く。
- ③できた文章を読んで確認する。読んだらチェックをつける。



# こんにやくキューブ ～ひらがなの分解・構成～

## 対象児童・生徒

1～5文字のひらがなの学習  
段階の生徒

S 高1 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・ひらがな1文字の音や2文字からの音のつながり、わかれを意識させる
- ・バラバラになったひらがなを再構成し好きな言葉をつくる

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①『こんにやく』(小野ルミ)の詩を読み、内容に沿って包丁または手で分解する
- ②「こん」と「にやく」になった...!!
- ③①を繰り返し1文字ずつにする
- ④不思議な新しい言葉を作ってみよう!!

スパッと切れる～



①



②



③



④



- ・左右にマジックテープを小さく切って張り付けたので、ひらがなの順番を入れ替えてもくっつく
- ・キューブの上部に穴をあけることで、包丁を持つのが難しい生徒でも指を入れることで簡単にちぎれるようにした



# 「そらいろのたね」の大きな家 ～～見る意欲や関心をもたせる～～

## 対象児童・生徒

小学部の児童が対象。絵本などのお話を読み、聞かせるだけでなく、より具体的に、実際の体験をする中でストーリーの理解ができる児童のための教材。

S 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

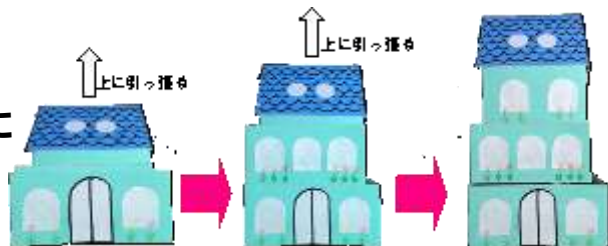
具体的な体験を通して、お話の理解を深めたり、自分が行ったことと、その結果の因果関係を理解したりすることができる。

○家を「入れ子」のように重ねて仕掛け、ひもで結び、さらに屋根を天井からひもで吊り、ひもを引っ張ることで家が伸びる様子を立体的に表現しています。

○実際に児童が家の中に入れるように、実物は2m四方・高さのサイズになっています。

## 教材の使い方 (指導方法)

- 「そらいろのたね」の絵本を読み聞かせる。  
 →その後、以下のように児童が実際に活動します。
- お話に出てくる「紙ひこうき」で遊ぶ。
- キツネ(役の教員)と紙ひこうきと種の交換をする。
- 種をまいて、じょうろで水をやる。  
 →ここではまだ、大きな家の上には茶色い布がかぶっている。
- 水をやるたびに「大きな家」が  
 どんどん伸びていく。
- 大きくなった「大きな家」に実際に入ってみる。



# のぼすおんボード ～長音・拗音の読み方、書き方の学習補助～

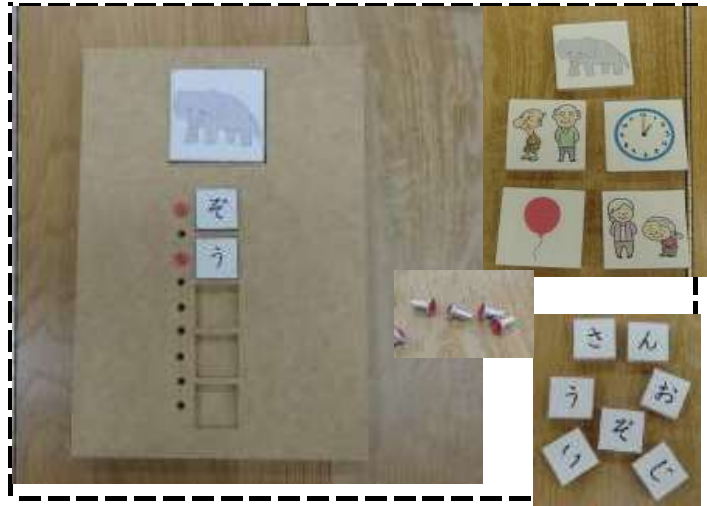
## 対象児童・生徒

長音の書き方を習い始めた1年生  
(左利き用)  
五十音の読み書き、音節分解も  
できるが、書くときに「おじい  
さん」が「おじさん」になって  
しまう児童にむけて作りました。

S 小1 C学習グループ

準ずる

教育課程



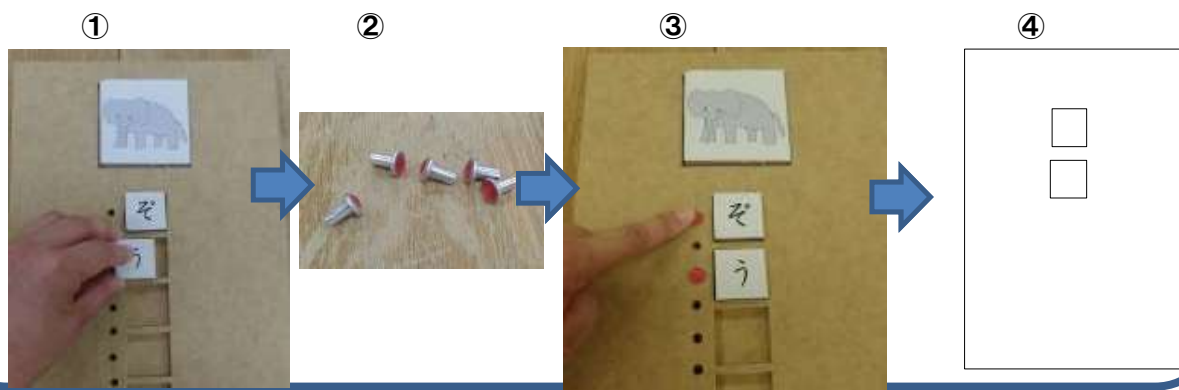
## ねらい

長音の正しい表記を覚える。

5文字までの単語に対応。  
リベットを差し込み、指で触ること  
で音節の学習ができます。左利き用  
なので左側に差し込みます。  
「きゅうり」のように、拗音、長音  
が混ざった単語は、「きゅ」の部分  
は文字と文字の間にリベットを差し  
ます。  
促音、拗音、長音いづれにも対応  
可。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・個別学習の場面で。
- ①絵カードを提示
- ②絵の単語を構成させる。
- ③リベットを入れ、音節で単語を読む。
- ④プリントに書く。





# 国語

～4コマ漫画で楽しく読解力を育む～

## 対象生徒

「読解は文字が多く、“苦手” “つまらない” “難しい” …」  
視覚情報も生かし、苦手意識を  
もたず、楽しんで文章読解をし  
てほしいと考え、B学習グル  
ープの国語では4コマ漫画を教材  
としました。

S 高3 B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の教育課程



ジュン



ゴウ



ユカ



シーン①  
「ダンボールからの声」

## ねらい

- ・ あらすじや登場人物の心情等を正しく読解することで、読む力の向上を図る。
- ・ 登場人物のセリフを音読することで、表現力を高める。
- ・ 4コマ目のセリフを文脈に沿って考え、文にすることで、論理的思考力とともに書く力も育む。

・四コマ漫画はPCペンタブレットで作成した。物語のストーリーはオリジナルなものとした。

・漫画ということもあり、どの生徒も取り組みやすかったようで、4コマ目のセリフを熱心に考えていた。

・セリフの音読では、音読が好きな生徒はもちろん、あまり進んで取り組もうとしない生徒も、積極的に挑戦していた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ① 教員の音読を聞く。
- ② 登場人物の生徒の配役を決め、音読する。
- ③ 物語のあらすじがわかったところで、別紙プリント?の4コマ目「・・・」のセリフについて、何と言っているか、文脈から考え、文にする。
- ④ 書いた答えを発表し合う。

シーン①  
ジュンとユカとゴウの三人は、学校からの  
かえりにふしぎなできごとにあいいます。  
四コマ目のユカのセリフは「・・・」になっ  
ています。ユカのセリフをかんがえましょう。

# 自己表現 ～調べ学習から自分の意見の表出へ～

## 対象児童・生徒

・授業中に自分の意見を論理的に話すことが難しく、文章での記述式に苦手意識をもっている。



## ねらい

・記述する内容と方法を身につける。  
・調べた内容から自分の意見を記述し、説明する力を身につける。



## 教材の使い方 (指導方法)

- <題材1>  
①課題に対して自分で調べて記述する。  
②課題に対して自分の意見を記述する。  
③授業中に調べた内容を他の生徒に説明する。  
<題材2>  
①題材1の①、②、③を行う。  
②他の生徒、教師と議論する。

題材

3年社会 歴史  
<宿題>  
課題  について

・課題について、①いつ②どこで③誰が④何を⑤どのように⑥なぜ、の観点から調べて記述せよ。

・自分の意見を述べよ。

・先生から一言

題材

3年社会  
<宿題>  
課題  について

・自分の意見を述べよ。

・先生から一言

## ～ここがポイント！～

題材1では、簡単な歴史上の物事についての課題を与え、文章を書くときの6つの観点を意識し、自分の意見を記述する訓練を行う。そして次の段階での題材2では、意見が分かれる課題を与え、題材1で訓練した6つの観点を意識して、相手に分かりやすく自分の意見を述べる訓練を行う。そして他者の意見に対して反論できる思考力と表現力を養う。

# 大きなかぶ ～ロールプレイングをしよう～

## 対象児童・生徒

・絵本を見て、聞くだけでは物語の内容を把握できにくい児童向けに、実際に演じてみることで、楽しく内容を理解しやすくする教材です。

S 小6 B学習グループ

知的障害を併せ有する児童の教育課程



## ねらい

- ・物語の内容を知る。
- ・登場人物の順番を知る。
- ・絵を見て、文章構成ができる。

・児童が首から下げる役のカードは、柔らかいボードで作成した。  
・文章が分かる児童には、名詞・助詞・動詞に分かれた単語カードを用いて文章構成をしやすいようにした。  
・実際に使用してみて、「あの役やりたい！」などと積極的に授業に関わろうとしていた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①持つパネルでは、教員が紙芝居のように絵本に沿って各パネルを動かしていく。
- ②ロールプレイングでは、児童が役柄ごとに首からかけ、どの児童が何役なのかを分かるようにする。
- ③文章構成では、単語のカードをカタカナにしたり、漢字にしたりするとバリエーションが膨らむ。

# 拗音カルタ

～語呂合わせで覚えよう！～

## 対象児童・生徒

- ・ 拗音の学習をする児童対象の教材です。

S 小2 C学習グループ  
準ずる 教育課程



## ねらい

- ・ 拗音を楽しく覚える。
- ・ 拗音を正しく書けるようになる。

- ・ 国語の授業で使用。
- ・ 板目紙で作製すると取りやすい。
- ・ 楽しんで学習でき、繰り返し行うことで理解が深まった。また「自分でも考えて作ってみる」と意欲的に学習していた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・ 拗音を語呂合わせで覚えます。
- ・ ゲーム性をもたせて、楽しんで学習できるようにします。

- ① イラストを取り札として、カルタ遊びする。
- ② 繰り返し学習し覚えてきたら、自分たちでもカルタ作りをする。